

患者の2人に1人が治療をさぼりがち!?

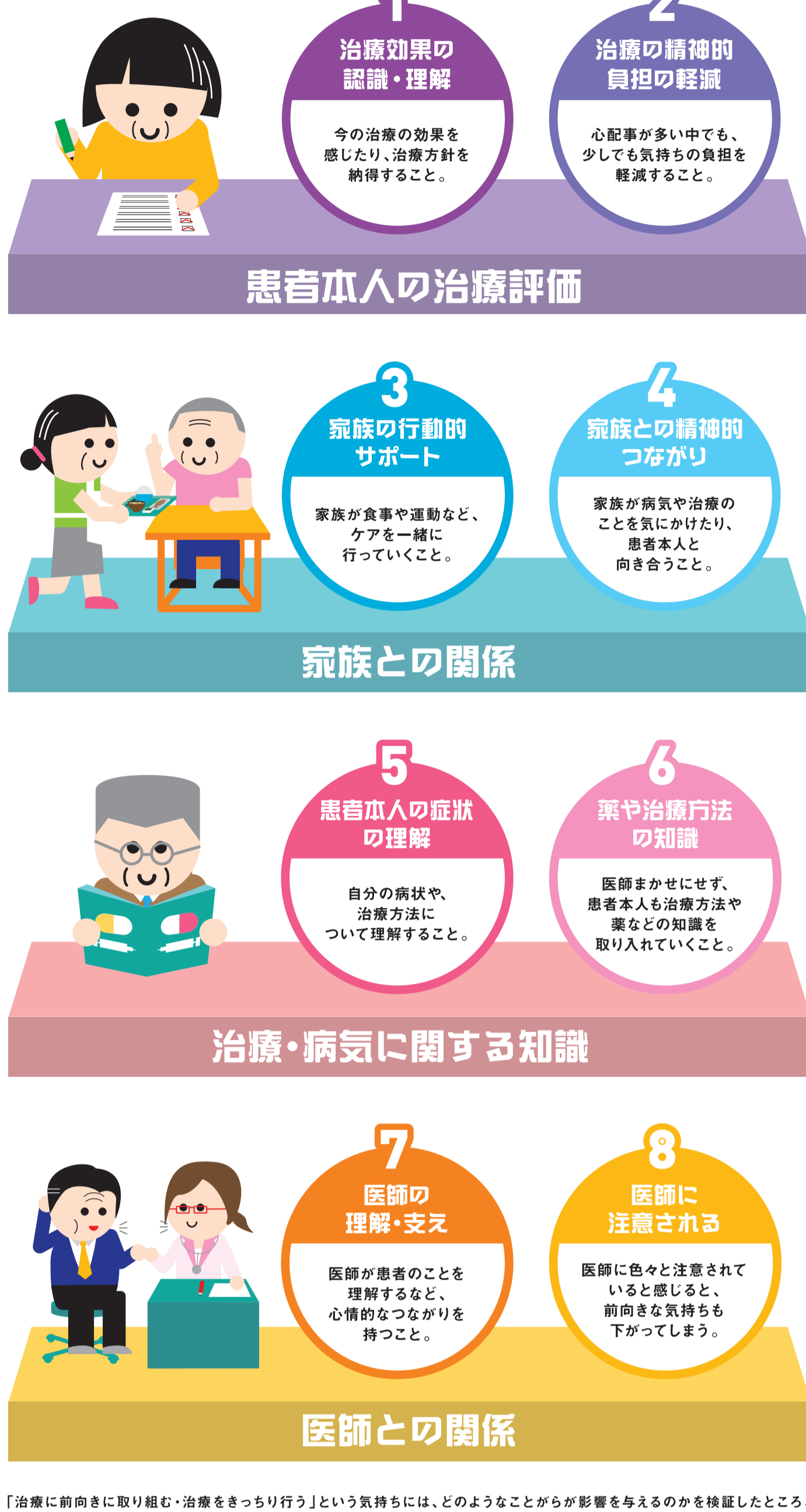
糖尿病患者が 治療に前向きになるための 8つのポイント



昨年末に発表された厚生労働省の調査結果によると、糖尿病と推測される人の数は**2,050万人**に達し、いまや国民病ともいわれています。メディカルライフ研究所では、**2013年10月**に、糖尿病患者の意識と行動の実態を把握することを目的に、塩野義製薬株式会社(本社:大阪市中央区)と共同で意識調査を行いました。その結果、糖尿病患者の大半が、治療継続の重要性を認識しているにもかかわらず、きちんと治療に取り組んでいる人は半数程度に留まる実態が浮かび上がりました。では、治療に前向きに取り組んでもらうためには、どうすればよいのでしょうか。「治療に前向きに取り組む」という意識を患者の目標とし、その意識を与える要素を、定量的なデータ分析により検証してみたところ、**8つのポイント**との関連性があることがわかってきました。

治療に前向きになってもらうための「8つのポイント」

治療への取り組みには、患者本人の意識だけでなく、**医師や家族との関係性も重要。**

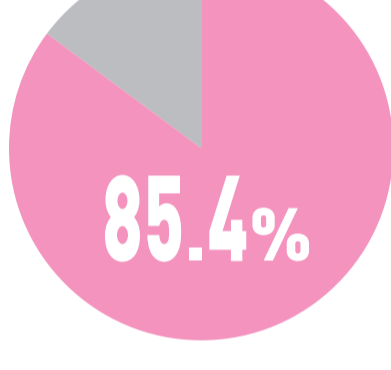


「治療に前向きに取り組む・治療をきっちり行う」という気持ちには、どのようなことがらが影響を与えるのかを検証したところ、上の図に示した**8つのポイント**が影響することがわかってきました。中でも影響力が高かったのは「治療効果の認識・理解」と「患者本人の症状の理解」の**2つ**。また、患者自身が疾患に対して持つ意識や知識に加えて、医師や家族といった周囲の方との関係も重要なようです。

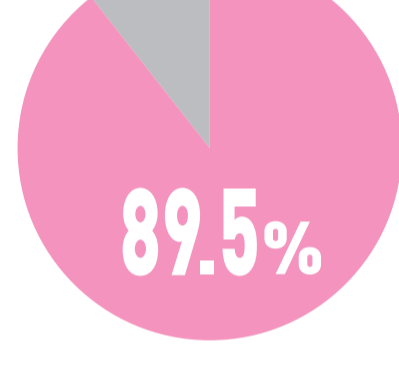
糖尿病患者の意識の実態

治療への意識

患者の**8割**は治療方針を理解しており、治療継続の重要性も認識している。



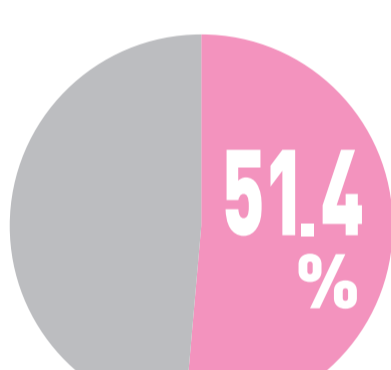
今の治療方針を理解している



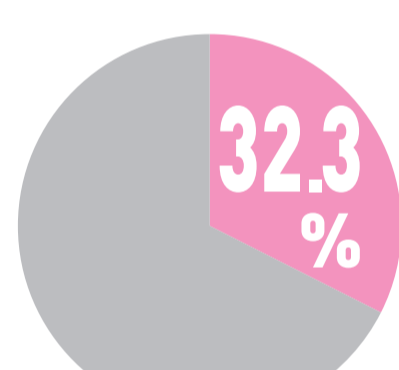
治療を継続しなければならぬ

治療への態度

「治療をきっちりやっていると思っている」人は半数程度、「治療をやめたいと思うことがある」人も3割存在する。



治療に必要なことはきっちりやっている



治療をやめたいと思うことがよくある

心配事や不満

患者の心配事は、合併症や検査値のことや家族への負担など多岐にわたる。

| | | |
|-----|---------------------------------|-------|
| 1位 | 透析になるのが怖い | 69.7% |
| 2位 | 網膜症になって失明するのが怖い | 68.8% |
| 3位 | 心筋梗塞になるのが怖い | 59.8% |
| 4位 | 脳卒中になるのが怖い | 55.9% |
| 5位 | これからいろいろな病気になりそうで怖い | 51.8% |
| 6位 | 体重の管理が難しい | 49.5% |
| 7位 | 薬をたくさん一生飲み続けるのが嫌 | 43.6% |
| 8位 | 糖尿病について、不満や心配事が多い | 42.5% |
| 9位 | 血糖、脂質、血圧などの検査値が気になって仕方がない | 39.2% |
| 10位 | 病気が悪化したり、通院や食事などで、家族の負担になるのが心配 | 38.4% |
| 11位 | 外食で気をつかったり、好きなものをたくさん食べられないのが負担 | 36.7% |
| 12位 | 治療を頑張っているのに、なかなか良くならないのが嫌になる | 32.7% |
| 13位 | 治療によって、低血糖を起こさないか心配 | 23.3% |
| 14位 | 家族の負担が気になって仕方がない | 18.5% |
| 15位 | 足のしびれ・痛みが我慢できない | 10.2% |

治療現場での活用

今回のレポートでは、糖尿病患者全体の意識と態度の把握を行いました。実際には、治療に前向きな人/そうでない人、医師との関係が良い人/良くない人、など様々なタイプの方がいらっしゃいます。今後は、そのようなタイプの特性を踏まえ、各タイプ毎に「糖尿病治療に取り組んでもらうためのポイント」を整理していくことによって、糖尿病患者のよりよい治療への取り組みをさらに考察していくことも必要と思われます。

※本調査結果については、塩野義製薬株式会社のホームページにおいても掲載しておりますので、ご覧ください。
塩野義製薬株式会社ホームページ <http://www.shionogi.co.jp>

メディカルライフ研究所の見解とまとめ

今回のレポートにあるように、糖尿病患者の心配事は、合併症のこと、体重管理のこと、薬のこと、家族への負担など、多岐にわたります。かつは、糖尿病治療という、血糖値の管理だけでなく、血糖値の管理以外にも多岐にわたりますが、これらの幅広い問題に対処し、普段の生活の質(QOL)を維持していくためには、血糖値の管理だけでなく、合併症など周辺領域の疾患についても医師と患者で情報共有していくことが必要と思われます。また、治療においては患者本人だけのこととせず、家族など周囲の方も患者への理解、及び糖尿病という疾患への理解を深め、一緒になって治療に協力していくことも重要といえます。

調査概要

- 調査手法 ————— インターネット調査
 - 調査時期 ————— 2013年10月
 - 調査地域 ————— 全国
 - 調査対象 ————— 20歳～69歳 男女
 - 調査サンプル ————— 有効回収数(糖尿病患者*) 3,437
- *糖尿病疾患・糖尿病に「あてはまる/やあてはまる」と回答し、かつ「医師の診断によって糖尿病と特定した」と回答した人

【調査質問項目】

- 糖尿病治療への認識 ●糖尿病治療への態度 ●糖尿病、治療に関する知識 ●糖尿病治療への心配事・不満
- 糖尿病治療における薬の評価 ●糖尿病治療における医師との関係評価 ●糖尿病治療における家族との関係評価
- 糖尿病治療において関わりのあるメディカルスタッフ など

メディカルライフ研究所 Research Report 研究パートナー

メディカルライフ研究所での調査・研究においては、「病気関連行動(illness behavior)」について多くの研究知見を保有するシンクタンク「(株)応用社会心理学研究所(アスペクト)」とパートナーシップを結び、協業して実施していきます。

※研究パートナー：株式会社 応用社会心理学研究所
基本商標 アスペクト(institute of Applied Social Psychology + connect)
代表者：廣田 君美
URL: <http://www.aspect-net.co.jp>